

第8回災害対策本部会議概要

日時	令和元年10月17日(木) 13:30
場所	市役所本庁舎2階 特別会議室
出席者	市長、吉崎副市長、菅野副市長、各特別職、各部局長、経済産業省、国土交通省東北地方整備局、福島県、陸上自衛隊、郡山警察署、郡山北警察署、消防本部、郡山市消防団、郡山医師会、郡山市社会福祉協議会

【各部局長報告】

○政策開発部長

- ・10月16日の正庁における対応件数は、り災証明書406件を含め計772件。2日間の累計は1,218件となっている。
- ・こおりやま広域圏による「台風第19号対応にかかる広域圏職員の相互派遣」については、田村市のとりまとめにより、本市他各市町村の必要人数を確認中。

○税部部長

- ・本庁他、り災証明書の受付件数は2日間で1,079件。
- ・り災証明書の発行を速やかに進めていく。

○市民部長

- ・保険証を流出した場合でも、氏名・生年月日等の情報により、医療機関で診療が受けられる。

○保健福祉部長

- ・指定避難所状況、保健所の対応状況について説明
- ・昨日の富久山町における毒物流出事故の顛末について説明。健康被害等なし。
- ・支援物資の受入状況について説明。個人からの支援物資は原則辞退。資料の他、竹田市からの支援物資あり。

○こども部長

- ・所管施設の被害状況等について説明。ほしのご保育園は昨日、尚志幼稚園は本日再開。

○農林部長

- ・農作物の被害状況。累計222,263千円。今後さらに増加する。

○建設交通部長

- ・公共交通機関の復旧状況報告。福島交通路線バスは一部復旧。JRも一部復旧。

○上下水道局長

- ・下水道施設被害状況報告。被害のひどい箇所から清掃作業を進める。
- ・洗浄に要した水道料金については、減免を行う。

○生活環境部長

- ・災害ゴミについて、2班体制直営で実施。昨日は346t。
- ・仮置き場第2段として逢瀬スポーツ広場が月曜朝一には稼動。自己搬入に目途がついた。

○総務部長

- ・外部からの支援について資料説明。
- ・災害ゴミ収集、撤去に職員派遣（18日～20日）
- ・り災証明受付について土日は3箇所（安積、富久山、田村）の行政センターを開け、体制強化する。

○保健福祉部長

- ・各地域交流センター等で入浴支援。中央で22名、西田で3名。

○学校教育部長

- ・市内で24校にシャワー有。避難所6校中では2校にシャワー有。

○建設交通部長

- ・ゆうゆう地下道の車道が本日午後開通。

○総務部長

- ・防災行政無線子局6ヶ所で電源供給できておらず、バッテリー電源稼動中。
- ・永盛小、赤木小については、復旧に時間を要する可能性があることから、万一のことを考え、ふれあいFAXで地元町内会に周知した。

○消防本部

- ・現在、消防車両の到着不能箇所なし。

○消防団長

- ・昨日11時～18時まで田村町において排水作業を完了した。

【リエゾンから】

○自衛隊

- ・現在、山形・宮城・北海道から応援派遣部隊が来ている。
- ・支援物資の搬入の他、高瀬において入浴支援。土砂除去作業に従事。

○国土交通省

- ・テックフォースによる災害調査実施。
- ・土嚢1万袋を本日午後引き渡した。
- ・路面清掃車、散水車各1台配置。排水ポンプ車配置計画有。

○経済産業省

- ・激甚災害指定に向け精査中。
- ・高瀬小に電気毛布20枚支援。
- ・政府の情報ツールを活用されたし。

○郡山警察署（北警察署）

- ・行方不明者の安否確認、被災地区のパトロールを展開。

○福島県

- ・本日からリエゾン派遣。

【市長から】

- ・災害情報について新聞等に克明に報道されている。本日の会議で初めて聞いた情報についても積極的に報道すること。
- ・会議資料の作成にあたっては、必ず何時現在かを入れること。
- ・ふれあいFAXは報道機関にも提供のこと。
- ・ある程度落ち着いた段階で阿武隈川上流域の国、県、市の情報交換、連絡会の再開をすること。
- ・被災職員、災害対応職員等のケアにも留意すること。
- ・農作物被害を始め、地域毎に違った課題が出てくる。実態に合わせた対応を進めること。
- ・被災住宅の洗浄にかなりの水道を使う。減免について積極的に報道されたい。
- ・明日以降の汚泥除去にあたっては、必ずマスク等を着用のこと。
- ・中国人の避難者が今後の生活を不安にしていた。ハローワークの支援必要。
- ・安倍総理は、避難者と膝を割って話されていた。今後、管理職も避難所へ行ってもらうが、ぜひ膝を交えて被災者の声を聴いていただきたい。
- ・一人家族の避難者については十分なフォローが必要。
- ・福島県には、県営住宅の提供について配慮願いたい。
- ・今週末にはまた雨が降る。あらゆる情報にアンテナを高くしておくこと。
- ・できるだけ細かい配慮により、一日でも早く市民生活を取り戻せるようにすること。
- ・自衛隊の支援には心より御礼申し上げる。